
Ⅲ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

コスメティックサイエンス学環

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

コスメティックサイエンス学環では、コスメティックサイエンス及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での化粧品及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。コスメティックサイエンス学環のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
基礎科目	理数系の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学、生物の基本的理解と、理学分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（理学系・農学系）	コスメティックサイエンスの知識の習得に必要な、化学と生物の基礎的な分野の理解と実践力を養います。そのため、高等学校で履修する化学及び生物の基礎的理解と応用力が不可欠です。
コア科目（基盤融合科目・実践研究科目）	有機化学と生化学を基礎として、コスメティックサイエンスの視点から物質の安全性、開発過程、製造工程などを通して体系的に理解します。それまでに学んだ他の専門科目の内容を十分に習得しておくことが必要です。また、コスメティックサイエンスのプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
学環周辺科目	コスメティックサイエンス分野と社会との接続を学んでいくためには、倫理観や責任感、未知なるものへの探究心や想像力、積極的な行動力や発信力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら研究を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

（入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み）

コスメティックサイエンスは、化粧品の原料を主とするさまざまな物質や材料の構造や機能の関係性・安全性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このようにコスメティックサイエンスを専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の生化学的性質を理解するためには生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、生物の基礎学力は、コスメティックサイエンスを専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

上記のことに加え、学環の特徴を生かし、様々な学問分野の専門知識を身につけ、複眼的視点から本学環の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」をもった学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学環で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学環への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学, 理科に関する知識・技能と, これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ コスメティックサイエンスの専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ④ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して, 本学環の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	
学力3要素との対応		「知能・技能」「思考力等」		「主体性等」		
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	74	○		
		個別テスト等	○	26		
		特色加点			☆	☆
	後期日程	共通テスト	70	○		
		個別テスト等	○	30		
		特色加点			☆	☆
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	95	○		
		志望理由書				
		活動実績報告書			(5)	(5)
調査書		○				

- i. 数値は, 各入試区分で評価する重み (総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%])
- ii. ○は, 間接的に評価したり, 内容を確認するもの
- iii. ☆は, 加点評価